

レジリエントな社会への変革をリードする
産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム (YOKOHAMA-SXIP)

2024年度派遣 募集要項

1. YOKOHAMA-SXIP の目的と概要

インド・オーストラリアのパートナー校と共同で、横浜・神奈川地域の産官学ネットワークを活用して、レジリエントな社会への変革をリードし、持続可能な未来社会を創造する SX (Sustainability Transformation) 人材育成のための国際共修プログラムを構築することを目的としたパートナー校と本学の学生が相互訪問する国際教育プログラムです。横浜国立大学が渡航費等を支援し、インド・オーストラリアの協定大学（以下、「協定校」という。）の学生とチームを組み、現代社会の諸課題の解決に向けて、持続可能性を前提にした次の3つの学修活動を行ないます。

- ①現地対面・オンライン学修併用による SDGs 課題に関する協働学修
- ②横浜・神奈川地域インダストリアルツアー・インターンシップ
- ③国際シンポジウムでの成果発表

当プログラムにおける3つのポリシー（別添1）に基づき、持続可能な未来社会を創造する意欲を持ち、国際的に活躍する人材を目指し、積極的に取り組む参加者を募集します。

2. プログラム内容

- (1) 学内外の講師による概論講義や SX 講義の聴講、協定校の学生と対面・オンラインで SDGs 課題の議論を行うグループ学修、現地で講義や文化・産業等を学ぶプログラムに参加。
- (2) 協定校からの学生受入時に、横浜・神奈川地域で SDGs に取り組む企業等を訪問するインダストリアルツアー・インターンシップ、文化交流活動等のイベントに参加。
- (3) グループの協働学修による成果を国際シンポジウムにて英語で発表。

3. 派遣先（いずれか1校）

【インド】

- ・パンジャブ大学 (Panjab University)
- ・インド工科大学カンプール校 (IIT Kanpur : IITK)
- ・アンナ大学 (Anna University)
- ・ベロール工科大学 (Vellore Institute of Technology : VIT)

【オーストラリア】

- ・ニューカッスル大学 (The University of Newcastle : UON)
- ・グリフィス大学 (Griffith University)

4.派遣期間

協定校毎の派遣時期は次のとおり。いずれも現地学修が原則 8 日間です。

一部に長期の現地学修を募集する協定校がある場合には、2-3 か月の長期。

	パンジャブ大学	IITK	アンナ大学	VIT	UON	グリフィス大学
派遣時期	8-9 月予定	8-9 月予定	8-9 月予定	8-9 月予定	11 月予定	8-9 月予定

※派遣時期は、UON を除き夏休み期間を予定していますが、派遣先のパートナー大学の都合により変更する場合があります。

※長期（2-3 か月）の派遣を希望する場合は予め「15. 問合せ先」に相談してください。

5. 募集人数

1 協定校につき 3 名程度。

※応募書類及び面接等により選考します。

※これとは別に、授業料・プログラム以外の渡航費用や宿泊費用等を自己負担して参加する場合の応募も受け付けます。

6. 派遣費用

(1) 大学負担費用

- ・授業料・プログラム費
- ・往復航空運賃（関連諸税含む）：羽田または成田～派遣先大学最寄りの空港
- ・国際線から国内線乗り継ぎ便に宿泊が発生した場合のホテル宿泊費用

(2) 自己負担費用

【参考】別添 2 昨年度（2023 年度）の渡航先スケジュール及び自己負担額

- ・宿泊費
- ・渡航準備費（パスポート取得費、VISA 取得費、予防接種・陰性証明取得費、等）
- ・渡航諸経費（空港までの国内交通費、超過荷物輸送料、等）
- ・現地往復送迎費用：現地到着日及び出発日の現地空港～派遣先大学校間
- ・保険・危機管理サービス費（海外旅行保険料、OSSMA 加入料等）
- ・両替・送金等の際に発生する銀行手数料、等
- ・派遣期間中の食費、日用品購入費、現地交通費、休日活動費等
- ・参加後に提出する語学スコアのための語学試験受験料
- ・自己都合によるキャンセルや変更により発生するキャンセル料や航空賃
- ・個人的な支出、等

※日本学生支援機構（JASSO）奨学金（詳細は後述の「10.」を参照）の受給者はこれを自己負担費用に充てることができます。

7. 応募資格

- ・ 本学の正規の学生であること（留学生は除く）
- ・ 協定校毎に指定した学部・学院の所属であること

	経済学部	経営学部	理工学部	理工学院	環境情報学院
パンジャブ大学	○	○	○	○	○
IITK			○	○	○
アツタ大学			○	○	○
VIT			○	○	○
UON			○	○	○
グリフィス大学	○	○			

- ・ 原則として、TOEIC600 点以上（IELTS 5.0 以上）と同等の語学力を有すること。英語統一試験のスコアを持っている人は、それを以って、「15. 問合せ先」に相談のこと。ただし、TOEIC600 点以上であっても、渡航前の語学力向上を目的に、追加の課題を課す場合があります。
- ・ 期間中のプログラムに積極的に参加し、他の参加者と協調しつつ、与えられた課題に対して締め切りまでに責任を持って取り組む覚悟と能力を有すること。
- ・ プログラムの趣旨・目的を理解し、これに専念し、目的外の行動を取らないこと。
- ・ 応募の時点で少なくとも 2025 年 3 月末まで有効のパスポートを有している、あるいは確実に取得できる見込みであること。

※病気・負傷や障害等のために特別な配慮が必要な場合は、応募までに、「15. 問合せ先」に相談してください。

※前年度までのプログラム参加者の再応募を妨げないが、選考に際しては過去に同プログラムに参加したことがない者を優先する。

8. 参加の条件

- ・ 応募時及び帰国後速やかに、語学スコア（TOEIC、IELTS、TOEFL iBT、TOEFL ITP 等）の写しを提出すること
- ・ 5 月下旬に開催する事前説明会に参加すること
- ・ 渡航前に「海外安全講習」（e-learning）を履修すること
- ・ 指定された期日までに、海外旅行保険及び OSSMA に加入すること
- ・ 協定校にて学修し、帰国後に報告書の提出を行うこと
- ・ 学部生は別添 3「SXIP 国際協働演習」を、大学院生は別添 4「SXIP 国際協働実践演習」を履修すること
- ・ 12 月に開催予定の日本語による事後報告会にて自身の成果報告を行うこと

9. 日程

5 月 面接・選定結果通知、派遣者対象のプログラム履修説明会及び事前説明会参加

6 月～9 月 国際協働学修（協定校の学生とオンラインで事前学修）

概論講義（YOKOHAMA-SXIP Overview Lectures）聴講

8月・11月 協定校へ派遣（派遣時期は前述 4. 派遣期間を参照）

8月 27日～9月 6日（予定） 協定校からの学生受入（グループ学修、横浜・神奈川地域インダストリアルツアー・インターンシップ等）

協定校の学生との交流（土曜又は日曜にエクスカーション（学生による引率））

9月 4・5日（予定）国際シンポジウムでグループ学修の成果発表

12月 事後報告会

12月 SXIP 産官学連携人材育成セミナー参加

10. 日本学生支援機構（JASSO）奨学金について

海外留学支援制度（協定派遣）の資格・要件を満たす学生には奨学金を支援する：

インド 6 万円、オーストラリア 7 万円

※JASSO による奨学金を受給された者は SXIP の派遣報告書とは別に JASSO の報告書を提出してもらいます。

11. その他

- ・本学の教職員による引率は全行程ではなく一部のみ。（事情により教職員の引率を行わない場合もあります。）
- ・「SXIP 国際協働演習」科目および「SXIP 国際協働実践演習」科目は、YOKOHAMA-SXIP 副専攻プログラムの科目における海外研修に相当する科目として申請可能。（卒業に必要な単位に算入されるかは各学部・学府によって取扱いが異なります）
- ・SXIP 国際教育プログラムにおいては、プログラム参加者による同窓会ネットワークの構築を目指しております。ご賛同いただける方は、卒業・修了後も使用可能なメールアドレスをご連絡ください。
- ・研究室所属の学生は、指導教員に相談の上、応募してください。

12. 応募方法

以下の応募フォームから申請してください。申込内容を確認後、YNU アドレスに受付完了メールを送信します。2 日以内にメールが届かない場合は、速やかに「15. 問合せ先」にご連絡ください。

<https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=odlf-malfkc-f1a0e9fbb993d97901947f74d6722d2d>

申請には以下の書類のアップロードが必要です。

- ・誓約書（ファイル名「誓約書_学籍番号_氏名」とすること）
※面接時に原本を提出してもらいます。
- ・成績証明書（ファイル名「成績証明書_学籍番号_氏名」とすること）
- ・学生証写し（PDF 又は画像データとし、ファイル名「学生証_学籍番号_氏名」とす

ること)

- ・パスポート写し（パスポート番号や顔写真のページのカラー版。ファイル名「パスポート_学籍番号_氏名」とすること）
- ・語学スコアを証明する書類（PDF とし、ファイル名「語学スコア_学籍番号_氏名」とすること）

【 締切 5月10日（金）午後2時 **厳守** 】

※応募書類の準備に時間を要するものがありますので、余裕を持って申請してください。

13. 選考方法

書類審査及び面接審査。面接日は5月13日（月）～22日（水）を予定。

14. 選考結果

5月24日（金）までに応募者全員に選考結果を通知します。

15. 問合せ先：

学務・国際戦略部グローバル推進課国際企画係（学生センター2階）

T E L : 045-339-3949/3109

e-mail : yokohama-sxip@ynu.ac.jp

別添 1 「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム」
における3つのポリシーについて

別添 2 昨年度（2023年度）の渡航先スケジュール及び自己負担額

別添 3 （学部版）SXIP 国際協働演習シラバス

別添 4 （大学院版）SXIP 国際協働実践演習シラバス

「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ
国際教育プログラム」における3つのポリシーについて

【受入・派遣の方針】

本プログラムの目的を理解し、幅広い視点から社会課題を持続可能な社会に向けて科学的・実践的に解決しようという意欲があり、多様な背景を持つ学生同士で学び合うことに積極的な姿勢を持つ学生を対象に受入れ、派遣を実施する。

【カリキュラム方針】

社会的レジリエンスに関わる専門知識と方法を身に付け、学部生についてはグローバル社会のサステナビリティ課題から事業を構想できる、大学院生についてはグローバル社会のサステナビリティ課題に対し分野横断的に先端技術を活用して課題を解決するための新技術を創造できるカリキュラムを設定する。

【修了証・単位授与方針】

社会的レジリエンスと持続可能性に関する専門知識を身に付け、多様な背景を持つ学生と意思疎通を行いながら、持続可能性に配慮した実践的課題解決能力を修得した者に修了証に相当するオープンバッジを授与する。本プログラムに関わる授業、演習、インターンシップなどの実習科目を修めた場合、本学およびパートナー大学との事前の協議に基づいて、部分的修学の承認を行う（高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約（通称「東京規約」）に準拠する）。

昨年度（2023年度）の渡航先スケジュール及び自己負担額

Panjab大学 （2023年8・9月）

昨年度渡航時の活動内容：

日付	活動内容
Day1	成田→デリー
Day2	→チャンディガール到着 パンジャブ大学へ移動 化学学部での受け入れ、担当教授、学部長、副学長との面談 図書館、学生会館など訪問
Day3	BioNest（研究の実用化を行う施設）や研究関連施設を見学 ローズガーデンと湖（スクナ湖）文化ツアー
Day4	経営学部の新歓パーティー 文化ツアー（ロックガーデン）
Day5	フリー
Day6	インダストリアルツアー（プロテクター製造） 担当教授宅でディナー
Day7	経営学部のワークショップに参加。 ヒンドゥ教寺院の見学
Day8	国際学生ディーン、研究開発ディレクターとの面談 YNU派遣予定の学生とのグループワーク
Day9	インダストリアルツアー（電子機器部品製造）
Day10	パンジャブ大学学生（化学工学、経済学、経営学、化学）との交流
Day11	担当教授宅での朝食 チャンディガール→デリー→
Day12	→成田

注： 上記はあくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。
今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

渡航時に自己負担した費用額

- ・ 交通費 Uberでタクシーを利用。4人で割り勘して一乗車当たり数百円。滞在を通して一人当たり8,000円程度
- ・ 宿泊費 寮費は10,080ルピー（約18,200円）。これとは別に洗濯一回当たり300ルピー（約540円）
- ・ 食費 朝食代 640ルピー（約1,160円）昼食、夕食代併せて 1,500ルピー（約2,720円)程度。

注： 上記はあくまでも目安であり、季節的な要因や、派遣時の協定校の学内行事等に伴う施設等の空き状況により、金額は変動します。
（1ルピーは1.81円で換算）

IIT – Kanpur （2023年度8月）

昨年度渡航時の活動内容：

日付	活動内容
Day1	羽田→デリー→ラクノウ空港到着 IITKへ
Day2	SMSS (Smart Material, Structure & Systems) Lab訪問 窓口教授ファミリーとのディナー
Day3	フライトラボ、NWTFラボ、関係教授ラボ訪問 関係教授によるプレゼンテーション 関係教授と学生とのディナー
Day4	SMSS Lab所属学生とのラクノウ文化ツアー
Day5	SMSS Labでの研究（教授とミーティング、サーベイ論文閲読）
Day6	自由行動 日本のアニメ上演会
Day7	SMSS Labでの研究（サーベイ論文の閲読、ソフトのインストール）
Day8	SMSS Labでの研究（静的シミュレーション）
Day9	SMSS Labでの研究（モーダル解析） ダンスイベント
Day10	SMSS Labでの研究（振動実験の見学）
Day11	ラクノウ→デリー→
Day12	→羽田

注：上記はあくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。
今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

渡航時に自己負担した費用額

- ・交通費 支払い無し
- ・宿泊費 支払い無し
- ・食費 2,000円程度
IITK滞在中はIITK内のホステルを利用（費用はIITK負担）。2,000円は空港内でかかった食費。

注：上記はあくまでも目安であり、季節的な要因や、派遣時の協定校の学内行事等に伴う施設等の空き状況により、金額は変動します。
（1ルピーは1.81円で換算）

Anna大学 （2023年12月）

昨年度渡航時の活動内容：

日付	活動内容
Day1	成田→クアラルンプール→
Day2	→チェンナイ空港到着 国際ゲストハウスへ移動 CIRでのミーティング 文化ツアー（カパリーシュワラル寺院、SI.トーマス教会）
Day3	学生クラブ活動（ダンス、ヨガ） ビルラ天文台、博物館見学
Day4	文化ツアー（マハーバリプラム）
Day5	気候変動・災害緩和センター（CCCCDM）でのディスカッション 国立ヘルスケア器具デバイスハブ（NHHID）でのディスカッション インド人学生とのディナー
Day6	「INDO-JAPAN Research Collaboration」ワークショップ 関係教授によるデザイン思考ワークショップ CFDへ訪問
Day7	アンナ大学副学長との面談、SXIPの活動発表会 VIT(Technoscape) に移動
Day8.9	Technoscape 学会（各国教授による研究発表） 15日午後Technoscape参加者で文化ツアー（Golden Temple）
Day10	チェンナイ→クアラルンプール→
Day11	→成田

注： 上記はあくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。
今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

渡航時に自己負担した費用額

- ・ 交通費 支払い無し。
- ・ 宿泊費 宿泊費：7,000円
アンナ大では不発生。上記はVITの3泊分で2人1部屋を折半した金額。
- ・ 食費 6,000円程度
主にインド人学生と外食した際と最終日の食事の際の出費。

注： 上記はあくまでも目安であり、季節的な要因や、派遣時の協定校の学内行事等に伴う施設等の空き状況により、金額は変動します。
（1ルピーは1.81円で換算）

VIT (2023年12月)

昨年度渡航時の活動内容：

日付	活動内容
Day1	成田→クアラルンプール→
Day2	→チェンナイ国際空港到着、VITへ移動 ゲストハウスで休憩、創立記念日ディナー
Day3	自由行動
Day4	文化ツアー（ジンジー、ティルヴァンナマライ）
Day5	大学ディーンとの面談 SEMの現地トレーニング
Day6	インダストリアルツアー（Footwear工場）
Day7	Technoscape2023学会（各国教授による研究発表）
Day8	Technoscape2023学会
Day9	Technoscape2023学会
Day10	マハーバリプラム(世界遺産) 見学。 チェンナイ→クアラルンプール→
Day11	→成田

注：上記はあくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。
今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

渡航時に自己負担した費用額

- ・交通費 支払いなし。
- ・宿泊費 18,500円
- ・食費 昼食代(主にVITのカフェテリア)が300～500円程度。空港での食事等を含めても10,000円程度。

注：上記はあくまでも目安であり、季節的な要因や、派遣時の協定校の学内行事等に伴う施設等の空き状況により、金額は変動します。
(1ルピーは1.81円で換算)

UON (2023年8・9月)

昨年度渡航時の活動内容：

日付	活動内容
Day1	羽田→
Day2	シドニー空港到着 ニューカッスルへ移動 GICAN (Global Innovation Center for Advanced Nanomaterials)訪問
Day3	横浜派遣予定学生との会議、グループプレゼンテーションに関する討論 副学長、関係教授との面談。 ラボツアー
Day4	キャンパスフェスティバルへの参加、（講義を含む）
Day5	エクスカーション
Day6	担当教授のラボでのデスクワーク 3名の関係博士および大学院生との討論
Day7	担当教授のラボでのデスクワーク 関係博士、横浜派遣予定学生との討論
Day8	担当教授のラボでのデスクワーク 関係博士と学生との討論 UONでの関係博士及び横浜派遣予定学生との夕食
Day9	フリー
Day10	シドニー→
Day11	→羽田

注： 上記はあくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。

今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

渡航時に自己負担した費用額

- ・ 交通費 空港～大学間：日本円換算で1,000円程度。
 市内の行き来：路面電車を利用。一乗車数百円程度。
 シドニー空港へ向かう空港線。一乗車2,000円程度
 渡航中に発生した交通費は20,000円程度
- ・ 宿泊費 一泊日本円で約15,000円のホテルに宿泊。10日で150,000円。
- ・ 食費 朝食代：ホテル代に朝食ビュッフェが含まれている。
 ランチ代、ディナー代：平均して一回あたり1,000円～、2000円程度。
 一日当たり4,000～5,000円程度の負担で、渡航中合計で40,000～50,000円程度。

注： 上記はあくまでも目安であり、季節的な要因や、派遣時の協定校の学内行事等に伴う施設等の空き状況により、金額は変動します。（1 豪ドルは100円で換算）

Griffith大学（2024年3月）

昨年度渡航時の活動内容：

活動内容	
Day 1	羽田→
Day 2	→シドニー→ゴールドコースト空港到着 Griffith大学でのオリエンテーション
Day3	ボランティアによる湖の清掃活動に参加 プレゼンテーションのリハーサル
Day4	Griffith大学キャンパスツアーとトレーディングルームプレゼンテーション 担当教授との面会 クイーンズランド美術館文化地区見学 オックスファムオーストラリアオフィス
Day5	講義「グローバル投資とマネジメント」 講義「ポートフォリオマネジメント」
Day6	講義「持続可能な経済」 講義「グリーンマーケティング」
Day7	日豪間の「グリーン水素貿易の展望」 SDG 16:「平和、正義 - カウンセリングの役割」 文化ツアー（タンボリン山）
Day8	ブリスベン訪問
Day9	担当教授及び学生との総括セッション ゴールドコースト→シドニー→
Day10	→羽田

注： 上記はあくまで応募検討の参考・便宜のために開示するものです。
今年度の具体的活動内容については、協定校側と協議の上決定します。

渡航時に自己負担した費用額

- ・ 交通費 空港からホームステイ先は8,800円、帰りはホストファミリーに送ってもらい0円。市内では約4,000~5,000円。
- ・ 宿泊費 ホームステイ代約72,000円
- ・ 食費 朝食と夕食はホームステイ先なので0円、ランチは大学では1,000~1,500円、レストランでは3,000円。

注： 上記はあくまでも目安であり、季節的な要因や、派遣時の協定校の学内行事等に伴う施設等の空き状況により、金額は変動します。（1豪ドルは100円で換算）

時間割コード:9103006				日本語シラバス			
SXIP国際協働演習[SXIP Joint Group Exercise]							
■ ■ 担当教員							
中村 一穂, 田名部 元成, マッコーレー アレック, 前田 雄介, 吉武 英昭, 伊藤 暁彦, 鈴木 淳史[NAKAMURA KAZUHO, TANABU MOTONARI, ALEXANDER MCAULAY, MAEDA YUUSUKE, YOSHITAKE HIDEAKI, ITO AKIHIKO, SUZUKI ATSUSHI]							
■ ■ 開講学部等	全学教育／教養教育	■ ■ 対象年次	1～4	■ ■ 単位数	2	■ ■ 使用言語	英語
■ ■ 開講時期	通年		■ ■ 開講曜限			■ ■ クラス	
■ ■ 授業形態	対面		■ ■ 授業形態 (詳細)			■ ■ 授業方法	演習
■ ■ 特記事項							
■ ■ ナンバリングコード		GQ.2711			■ ■ 実務経験のある教員による授業		

授業の目的

グローバル社会のサステナビリティ課題から事業を構想し、ステークホルダーと協働して新しい仕組みや新技術を社会実装する起業家（SX(Sustainability Transformation)リーダー）に求められる素養を育成することを目的とする。

日本人と外国人からなる国際的かつ分野横断型の学生チームを結成し、提示される持続可能な社会の創造に向けた課題に対して、主体的に計画を作成し双方向交流を行う。具体的には下記①～③のプログラムに取り組む。①海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インターンシップ/インダストリアルツアー、文化交流活動：実社会での体験により経済のグローバル化、先端科学産業への理解を深め、社会実装の企画力を育む。②国際協働学修：チームごと与えられるSX課題についてWebによるディベートを行う。海外のパートナー大学において国際協働海外研修に参加し、関連講義、実践的ワークショップ、共同研究などの取組みを通じて、国際社会、異文化への理解を総合的に深めると共に研究・開発能力を高める。③共同国際シンポジウム（＋成果報告）：学生企画による成果報告セッションを設け、プログラム体験を深く考察し発表報告、議論することにより、プレゼンテーション力、ディベート力とともに、経済合理性を持って新しい仕組みや技術を社会実装する企画力を養成する。これらのチームによる取組を通じて語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップを育むとともに、自らの専門分野の位置づけを明確に認識して活躍できる専門家を育成する。

授業計画

（項目説明）授業全体のスケジュールを示しています。学修計画を立てる際の参考にしてください。

- 1 ガイダンス
- 2 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 3 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 4 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 5 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 6 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 7 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 8 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 9 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 10 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 11 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 12 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 13 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 14 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 15 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表

授業時間外の学修内容

（項目説明）授業全体を通して授業前に予習すべき内容、授業後に復習すべき内容を示しています。単位は、授業時間前後の予習復習を含めて認定されます。

- ・与えられた課題の調査と英語での討論の準備
- ・各取組内容についてまとめと成果報告会の準備
- ・報告書の作成

■ 履修目標

（項目説明）授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

- ・ SXに関する英語ディベートが行える。
- ・ 国際的かつ分野横断型の学生チームのリーダーとしてグループワークを推進できる。
- ・ 取組を通じて新たなSX課題を見出し、経済合理性を持った解決の仕組みや技術を社会実装する企画が提案できる。

■ 到達目標

（項目説明）授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・ SXに関する英語プレゼンテーションが行える。
- ・ 国際的かつ分野横断型の学生チームによるグループワークに参加できる。
- ・ 取組を通じてSX課題について理解する。

■ 成績評価の方法

（項目説明）成績評価の方法と評価の配分を示しています。

取組の積極性、英語によるディベート、プレゼンテーション、成果報告書、海外研修先のからの参加学生の評価などを総合して行う。

■ 成績評価の基準 -ルーブリック-

（項目説明）授業別ルーブリックでは評価の項目と、成績評価の基準との関係性を確認できます。（表示されない場合もあります。）

【成績評価の基準表】

秀(S)	優(A)	良(B)	可(C)	不可(F)
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標

到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

【授業別ルーブリック】

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
課題を解く力	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても課題を自発的に解くことができない。
解法を口頭で説明する力（プレゼン内容）	聴衆を引きつける説明ができる。	聴衆の理解を助ける説明ができる。	板書内容を補足する説明ができる。	板書内容を正しく説明することができる。	板書内容を正しく説明できない。
解法を文書で説明する力（レポート内容）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	必要な式は書くことができる。	必要な式が欠落している内容である。

■ 授業の方法

（項目説明）教員が授業をどのように進めるのか、課題提出などの情報もあわせて示しています。

ガイダンスでの指示に従うこと。

■ 教科書

■ 教科書補足

■ 参考書

参考書補足

教科書は特に指定しない。必要に応じて参考書を紹介し印刷物を配布する。

履修条件および関連科目

（項目説明）この授業を履修するにあたってあらかじめ履修が必要な授業、並行して履修することによって学修効果を高める授業などを示しています。

「海外安全講習」（E-learning）を受講すること。

レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム（YOKOHAMA-SXIPプログラム）に係る学生派遣が認められた者のみが履修できる科目のため、履修登録期間内の登録はできません。（履修登録にあたってはYOKOHAMA-SXIPプログラム問い合わせ先（学務・国際戦略部グローバル推進課国際企画係）に相談すること。）

キーワード

海外研修（Overseas Training）、インターンシップ（Internship）、プレゼンテーション（Presentation）

備考

地球温暖化などのグローバルな環境問題、テクノロジーの進化による産業構造の変化、新型コロナウイルスの流行などにより、私たちを取りまく環境は急速に変化しています。本演習では、インドとオーストラリアのパートナー大学と連携し、主体的にサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に関する課題を見つけて、双方向の交流を行います。実際に海外の学生や教員と対面に対話することで、インターネットやSNSでは得られない交流ができ、お互いの価値観を理解することができます。

授業アンケート結果に対する担当教員からのコメント

参照ホームページ

授業評価アンケート公開

教員からの一言

オフィスアワー

連絡先（教員室）

連絡先（電話番号）

連絡先（メールアドレス）

備考3

ホームページ

<http://www.nakamuralab.ynu.ac.jp/>

時間割コード:9GC5101				日本語シラバス			
SXIP国際協働実践演習[SXIP Joint Group Practical Exercise]							
■ ■ 担当教員							
前田 雄介, 吉武 英昭, 中村 一穂, 松田 裕之, 伊藤 暁彦, 鈴木 淳史[MAEDA YUUSUKE, YOSHITAKE HIDEAKI, NAKAMURA KAZUHO, MATSUDA HIROYUKI, ITO AKIHIKO, SUZUKI ATSUSHI]							
■ ■ 開講学部等	全学教育／教養教育	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数	2	■ ■ 使用言語	英語
■ ■ 開講時期	通年		■ ■ 開講曜限			■ ■ クラス	
■ ■ 授業形態	対面		■ ■ 授業形態 (詳細)			■ ■ 授業方法	演習
■ ■ 特記事項							
■ ■ ナンバリングコード					■ ■ 実務経験のある教員による授業		

授業の目的

グローバル社会のサクテナビリティ課題を見出し、分野横断的に先端技術を活用して解決技術を創造する実践的研究者／エンジニアに求められる素養を育成することを目的とする。

日本人と外国人からなる国際的かつ分野横断型の学生チームを結成し、提示される持続可能な社会の創造に向けた課題に対して、主体的に計画を作成し双方向交流を行う。具体的には下記①～③のプログラムに取り組む。①海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インターンシップ/インダストリアルツアー、文化交流活動：実社会での体験により経済のグローバル化、先端科学産業への理解を深め、社会実装の企画力を育む。②国際協働学修：チームごと与えられるSX課題についてWebによるディベートを行う。海外のパートナー大学において国際協働海外研修に参加し、関連講義、実践的ワークショップ、共同研究などの取組みを通じて、国際社会、異文化への理解を総合的に深めると共に研究・開発能力を高める。③共同国際シンポジウム（＋成果報告）：学生企画による成果報告セッションを設け、プログラム体験を深く考察し発表報告、議論することにより、プレゼンテーション力、ディベート力とともに、経済合理性を持って新しい仕組みや技術を社会実装する企画力を養成する。これらのチームによる取組を通じて語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップを育むとともに、自らの専門分野の位置づけを明確に認識して活躍できる専門家を育成する。

授業計画

（項目説明）授業全体のスケジュールを示しています。学修計画を立てる際の参考にしてください。

- 1 ガイダンス
- 2 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 3 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 4 国際協働学生チームによるSX課題のWebディベート
- 5 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 6 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 7 海外チームメイト来学時における横浜・神奈川地区インダストリアルツアー／インターンシップ、文化交流活動
- 8 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 9 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 10 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 11 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 12 海外パートナー大学における国際協働海外研修
- 13 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 14 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表
- 15 シンポジウム（成果報告会）の準備および発表

授業時間外の学修内容

（項目説明）授業全体を通して授業前に予習すべき内容、授業後に復習すべき内容を示しています。単位は、授業時間前後の予習復習を含めて認定されます。

- ・与えられた課題の調査と英語での討論の準備
- ・各取組内容についてまとめと成果報告会の準備

- ・報告書の作成

■ 履修目標

（項目説明）授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

- ・SXに関する英語ディベートが行える。
- ・国際的かつ分野横断型の学生チームのリーダーとしてグループワークを推進できる。
- ・取組を通じて新たなSX課題を見出し、経済合理性を持った解決の仕組みや技術を社会実装する企画が提案できる。
- ・分野横断的に先端技術を活用して解決技術を創造するための研究計画、開発計画を提案できる。

■ 到達目標

（項目説明）授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・SXに関する英語プレゼンテーションが行える。
- ・国際的かつ分野横断型の学生チームによるグループワークに参加できる。
- ・取組を通じてSX課題について理解する。
- ・自らの専門分野の位置づけを認識でき、説明できる。

■ 成績評価の方法

（項目説明）成績評価の方法と評価の配分を示しています。

取組の積極性、英語によるディベート、プレゼンテーション、成果報告書、海外研修先のからの参加学生の評価などを総合して行う。

■ 成績評価の基準 -ルーブリック-

（項目説明）授業別ルーブリックでは評価の項目と、成績評価の基準との関係性を確認できます。（表示されない場合もあります。）

【成績評価の基準表】

秀(S)	優(A)	良(B)	可(C)	不可(F)
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標

到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

【授業別ルーブリック】

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
課題を解く力	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても課題を自発的に解くことができない。
解法を口頭で説明する力（プレゼン内容）	聴衆を引きつける説明ができる。	聴衆の理解を助ける説明ができる。	板書内容を補足する説明ができる。	板書内容を正しく説明することができる。	板書内容を正しく説明できない。
解法を文書で説明する力（レポート内容）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	必要な式は書くことができる。	必要な式が欠落している内容である。

■ 授業の方法

（項目説明）教員が授業をどのように進めるのか、課題提出などの情報もあわせて示しています。

ガイダンスでの指示に従うこと。

■ 教科書

■ 教科書補足

参考書

参考書補足

教科書は特に指定しない。必要に応じて参考書を紹介し印刷物を配布する。

履修条件および関連科目

（項目説明）この授業を履修するにあたってあらかじめ履修が必要な授業、並行して履修することによって学修効果を高める授業などを示しています。

「海外安全講習」（E-learning）を受講すること。

「海外安全講習」（E-learning）を受講すること。

レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム（YOKOHAMA-SXIPプログラム）に係る学生派遣が認められた者のみが履修できる科目のため、履修登録期間内の登録はできません。（履修登録にあたってはYOKOHAMA-SXIPプログラム問い合わせ先（学務・国際戦略部グローバル推進課国際企画係）に相談すること。）

キーワード

海外研修（Overseas Training）、インターンシップ（Internship）、プレゼンテーション（Presentation）

備考

地球温暖化などのグローバルな環境問題、テクノロジーの進化による産業構造の変化、新型コロナウイルスの流行などにより、私たちを取りまく環境は急速に変化しています。本演習では、インドとオーストラリアのパートナー大学と連携し、主体的にサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に関する課題を見つけて、双方向の交流を行います。実際に海外の学生や教員と対面に対話することで、インターネットやSNSでは得られない交流ができ、お互いの価値観を理解することができます。海外でのラボ活動や国際シンポジウムのイベントを通じて、自らの研究の世界へのアピールと世界における研究レベルについて理解する機会が得られます。

授業アンケート結果に対する担当教員からのコメント

参照ホームページ

授業評価アンケート公開

教員からの一言

オフィスアワー

連絡先（教員室）

連絡先（電話番号）

連絡先（メールアドレス）

備考3

ホームページ

<https://iir.ynu.ac.jp/index-j.html>